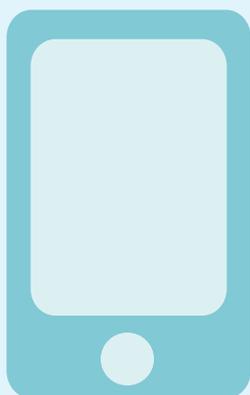
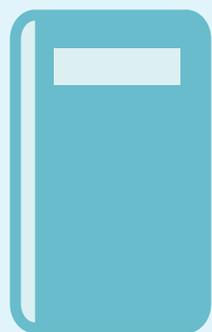


# ICER

九州大学附属図書館付設教材開発センター年報

## 2017



Innovation Center for Educational Resource

# 目次

はじめに	02
組織図	03
部門紹介	04
メンバー	05
プロジェクト紹介	06
MOOC 大規模公開オンライン講座	07
文学部 日本史学(宮中儀礼)を対象とした教材開発	09
文学部 中国文学を対象とした教材開発	10
セルフケアプログラムのWebコンテンツ開発	11
放射線治療のための患者セットアップトレーニング支援教材の開発と効果測定	12
代表的研究者紹介ビデオ制作	13
その他の教材開発の取り組み	14
活動紹介	15
講義動画等の撮影・編集・公開	16
FD講習会開催	20
教材開発支援機材	22
学会・イベント等	23
刊行物	29

## はじめに



教材開発センター長 岡田 義 広

2017年度は2011年4月に教材開発センターが設置されて7年目となります。前々年度に4年間センター長としてご尽力いただきました藤村直美先生(現情報基盤研究開発センター・特任教授)からセンター長を引き継ぎ3年目の年となりました。昨年度異動されました本センター元助教の金子晃介先生(現サイバーセキュリティセンター富士通スペシャリスト育成研究部門・准教授)の後任として、2017年7月1日付けで、北海道大学から石偉先生に来ていただきました。専任教員4名、協力教員7名、テクニカルスタッフ3名、専門員と事務補佐員の体制で本センターの業務を遂行して参りました。教材開発センターの主な業務は、講義等ビデオ教材の撮影・編集・公開、MOOC(Massive Open Online Course)コンテンツの制作、ICTを活用した電子副教材の開発およびその支援、著作権等電子教材の開発に係る各種講習会の実施です。また、昨年度から開始した本学代表的研究者紹介ビデオの制作があります。3名のテクニカルスタッフとともに、4～5月に集中した各種講習会、基幹教育院大学院講義プロモーション・ビデオ制作等乗り切ることができました。

4年目となるMOOCコンテンツの制作では、総合研究博物館准教授の丸山宗利先生に講師をお願いし、「昆虫学入門 -多様性を探る- Exploring Insect Biodiversity」を制作しました。8月に対面でのお打合せ、講義資料の準備をお願いし、本センターは主に著作権処理の対応を行いました。11月に本編とプロモーションのビデオ撮り、その後字幕制作とビデオ編集を行いました。当初、今年度の開講予定でしたが、テーマが昆虫であり夏季の開講が好ましいため、来年度の開講としました。丁度2015年度に開講したMOOC「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」の再開講の要望が多方面からあり、2018年1月10日～2月7日に再開講しました。新しい試みとして、杏林大学との共催による反転学習(対面型ワークショップ)を2018年2月17日に開催しました。講師である岡村耕二教授(サイバーセキュリティセンター長)にはご尽力いただきました。

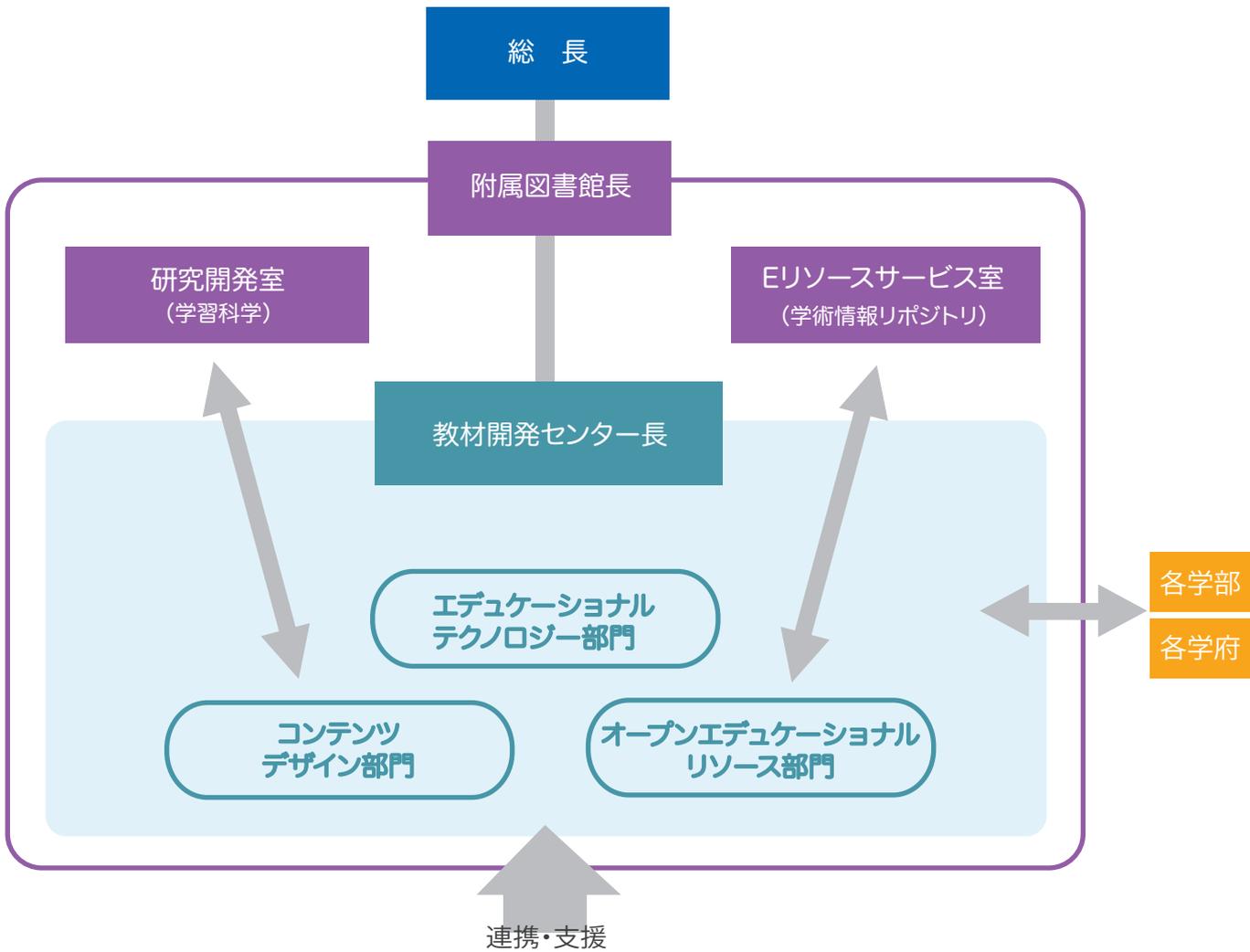
2年目となる本学代表的研究者紹介ビデオの制作は、毎月2～3件の公開を目標に実施して参りましたが、講習会等のビデオ撮影依頼が多い月は1件の公開に留まることもあり、今年度末現在15件を公開しております。来年度中には代表的研究者の全紹介ビデオを公開したいと考えています。

ICT活用電子副教材の開発では、昨年度に引き続き日本史学・中国文学の対話型ウェブ教材の開発等を継続実施しました。また、福岡市とNPO法人「福岡城市民の会」と連携して開発を行ってきた福岡城や鴻臚館の歴史を知ってもらう対話型ウェブ教材は、「発見100年記念特別展 よみがえれ! 鴻臚館-行き交う人々と唐物-【福岡市博物館】」にて体験展示が行われました。また、キャンパスライフ・健康支援センターの先生方からご要望があり、学生生活QOLセルフチェック・ウェブページ制作のお手伝いをしました。さらに、留学生センターの先生からご相談があり、留学生向け漢字学習・ウェブページ制作のお手伝いをしました。

今後も、学内の各種センター・部局等との連携を深め、学外の動向等も調査しながら、本学の学習環境の向上を目指して活動してまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜れましたら幸いです。

# 組織図

**ICER** 九州大学附属図書館付設教材開発センター  
Innovation Center for Educational Resource



- 基幹教育院  
FD・教授法に関する支援
- 医療系統合教育研究センター  
FD・教授法に関する支援
- 情報基盤研究開発センター  
学習管理システムの運用
- システム情報科学研究院  
ICT活用支援
- 芸術工学研究院  
コンテンツデザイン支援
- 人間環境学研究院  
教育方法に関する支援
- 人文科学研究院  
コンテンツ開発
- 医学歴史館  
コンテンツ開発
- 学術研究・産学官連携本部  
著作権実務処理の連携

# 部門紹介

## エデュケーショナル テクノロジー 部門

自律的な学習能力および実践力を育成する教育技術の開発

- ・ インストラクショナルデザインに基づいた教材、教育方法の開発
- ・ 学習規定を把握し、適切な指導を可能とするシステムや制度の開発
- ・ 協調学習や学生主導型学習によるあらたな教育方法



## コンテンツ デザイン 部門

魅力あるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールの開発

- ・ 双方向型3次元マルチメディアや競争原理(ゲーム性)の活用
- ・ 携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツ開発
- ・ コンテンツの再利用性を高め再編集を可能とする基盤技術の開発



## オープン エデュケーショナル リソース部門

知の公共化と学びの共同体の醸成

- ・ 多彩なチャンネルによるアクセスの容易化と構造的な可視化  
(OCW, YouTube, iTunes U, QIR, 研究情報システムなど)
- ・ コンテンツ再利用促進のための著作権処理のシステムや制度の開発
- ・ SNSの活用等、学内外の教材利用者による学びの共同体の醸成



## メンバー

専任教員		
センター長	岡田 義広	システム情報科学府担当
准教授	安西 弥生	
助教	谷澤 亜里	
	石 偉	※ 2017年7月から
協力教員		
協力教員	三木 洋一郎	基幹教育院 教授
	金 大雄	芸術工学研究院 教授
	松隈 浩之	芸術工学研究院 准教授
	池田 大輔	システム情報科学研究院 准教授
	金子 晃介	サイバーセキュリティセンター 准教授
	菊川 誠	医学研究院 講師
	麻生 典	芸術工学研究院 助教
運営委員		
委員長	岡田 義広	教材開発センター長
委員	宮本 一夫	附属図書館長
	安西 弥生	教材開発センター 准教授
	三木 洋一郎	協力教員/基幹教育院 教授
	竹吉 正志朗	学務部長
	木村 優	附属図書館事務部長

# プロジェクト紹介

# MOOC 大規模公開オンライン講座

教材開発センターでは、平成26年度にMOOC(Massive Open Online Courses 大規模公開オンライン講座)の教材制作、開講への取り組みを開始しました。平成26年度は溝口孝司教授(比較社会文化研究院)とClaire Smith先生の講師による「Global Social Archaeology」を開講し、平成27年度は、岡村耕二教授(サイバーセキュリティセンター長)の「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」と溝口孝司教授とClaire Smith先生による「Global Social Archaeology: Expanded edition」を開講し、両講座とも反転授業を実施しました。平成28年度は、都甲潔教授(味覚・嗅覚センサ研究開発センター長)をお迎えし「味と匂いの科学技術」を開講しました。また、今年度については要望の高かった「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」を再開講しました。

## 「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」再開講 概要

### 講師

岡村 耕二 教授 (サイバーセキュリティセンター長)

### 公開プラットフォーム

Open Learning, Japan (JMOC公認プラットフォーム)

### 開講期間

2018年1月10日(水)～2月7日(水)



本講座は平成27年に開講した講座の再開講になります。再開講を行うにあたっての新たな取り組みとして、杏林大学との共催による反転学習(対面型ワークショップ)を実施しました。

岡村耕二教授は、最近の深刻なサイバー攻撃脅威・リスクへの対策やセキュリティ脅威の体験デモビデオ紹介、岩隈道洋教授は情報セキュリティに関わる権利や法律について、法律の分野から講義を行いました。また、グループワークでは参加者同士が活発なディスカッションを行い、最先端のサイバーセキュリティについて学習・体験することのできる貴重な場となりました。



岡村 耕二 教授

### 「反転授業(対面型ワークショップ) 開催概要」

#### 日時

2018年2月17日(土)13:20～16:30

#### 場所

杏林大学 井の頭キャンパス F棟(東京都三鷹市下連雀5-4-1)

#### 講師

岡村 耕二 教授(九州大学 サイバーセキュリティーセンター長)

岩隈 道洋 教授(杏林大学 学園総合情報センター長)

糟谷 崇 准教授(杏林大学)

## 結果

開講期間中の受講登録者は560名で、このうち修了者は170名でした。従って、登録修了率は30.4%となりました。登録者は、男性が全体の4分の3を占めており、また、40～60代が最も多い結果となりました。修了者からの全体のコース評価では、「大変満足」と「やや満足」を合わせると、81.2%の高評価を得ることができ、再開講についても成功裏に終了しました。



<https://www.jmooc.jp/providers/kyushu-u/>

## 平成29年度の取り組み

平成29年度は、九州大学総合研究博物館の丸山宗利准教授に講師をお願いし、「昆虫学入門-多様性を探る- Exploring Insect Biodiversity」のMOOCコンテンツ制作を実施しました。

コンテンツ本編を教材開発センターのスタジオで収録、プロモーションビデオは九州大学総合研究博物館特別展示会場、箱崎キャンパス内で撮影し、動画編集および字幕制作を行いコンテンツが完成しました。

本講座では、どうして昆虫が多様なのか、どのように多様なのか、昆虫の多様性の実態とその理由について学ぶことができます。講師の専門はアリと共生する昆虫(好蟻性昆虫)で、その研究内容も紹介しています。また、研究にあたり講師は世界各地で採集調査を行っており、ここ数年で印象深かった調査の様子も含め紹介しています。本講座は、来年度の夏に開講する予定です。



丸山 宗利 准教授



スタジオ撮影風景

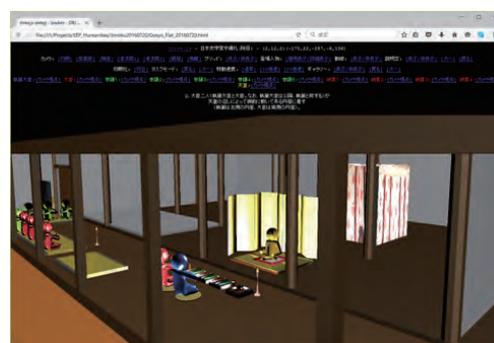
# 文学部

# 日本史学(宮中儀礼)を対象とした教材開発

文学部が実施したEEP(九州大学・教育の質向上支援プログラム)「文系ディシプリン科目教科書・副教材の開発(人文学教育カリキュラムの充実を目指して)」(期間:平成25~27年度)との連携活動の一つとして、平成26年度から、人文科学研究院 坂上康俊教授の研究室メンバーと協働で日本史学(宮中儀礼)に関する副教材の開発を今年度も実施しています。

## 活動組織

坂上 康俊 (人文科学研究院 教授)  
山下 洋平 (人文科学研究院 助教)  
竹井 良介 (人文科学府 博士後期課程)  
岡田 義広 (教材開発センター長)  
石 偉 (教材開発センター 助教)  
徳永 寛明 (システム情報科学府 修士課程)



## 活動概要

宮中の儀式の様子を紙の媒体だけで学習するのではなく、3次元CGアニメーションや3Dプリンターで出力された建物のモデルを見ながら学習することで、学習内容をより深く理解でき、学習対象に興味を沸かせることができると考えています。3次元CGアニメーションを表現するために、種々の故実書や論文等から情報を収集し内容の精査を行いながら、その時代の建物の形状モデル作成を行う必要があります。登場人物の動線や振る舞いについてもデータ作成を行う必要があります。当該の教材は、Webコンテンツとして開発し、Web上で順次公開していきます。

## 平成29年度の取り組み

平成28年度に引き続き「除目」とよばれる平安時代中期以降の諸官を任命する儀式(宮中の年中行事)を3次元CGアニメーションで再現する対話型電子教材の開発に取り組みました。WebGLという技術による閲覧システムの完成度も上がり、任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。登場人物の細かな振る舞いを表すアニメーションデータの作成に注力しています。

## 研究業績

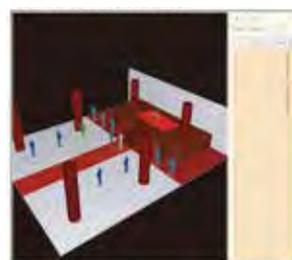
1. 岡田 義広, 金子 晃介, 谷澤 亜里 : 3D歴史学Web教材開発フレームワークのVR/ARへの応用, メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会, Oct. 19, 2017.
2. Okada, Y., Kaneko, K. and Tanizawa, A. : INTERACTIVE EDUCATIONAL CONTENTS DEVELOPMENT FRAMEWORK AND ITS EXTENSION FOR WEB BASED VR/AR APPLICATIONS, Proc. of the GameOn 2017, Eurosis, ISBN: 978-90-77381-99-1, pp. 75-79, September 6-8, 2017.

# 文学部 中国文学を対象とした教材開発

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々と連携活動の一つとして、高校生を対象とした「鴻門の会」と「史記・荊軻列伝」二つの漢文を効果的に学習できる教材を研究開発しています。

## 活動組織

静永 健（人文科学研究院 教授）  
長谷川 真史（人文科学研究院 専門研究員）  
栗山 雅央（人文科学研究院 専門研究員）  
種村 由季子（人文科学研究院 専門研究員）  
井口 千雪（人文科学研究院 講師）  
岡田 義広（教材開発センター長）  
金子 晃介（教材開発センター 協力教員）  
石 偉（教材開発センター 助教）



「史記・荊軻列伝」



「鴻門の会」のモニタリング

## 活動概要

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々と協働で、高校生を対象とした「鴻門の会」と「史記・荊軻列伝」の漢文を効果的に学習できる二つの教材を研究開発しています。「鴻門の会」は、紀元前206年頃の中国で楚の項羽と漢の劉邦が会見した出来事を記載されている文学作品です。「史記・荊軻列伝」は、中国戦国時代末の刺客荊軻の伝説に関する文学作品です。今回教材として使用する部分は「荊軻列伝」の中に「窮まりてヒ首見はる」で、荊軻が秦王を刺殺した出来事を記載されています。この二つは高校生が習う漢文の教材の中で有名な題材になっています。本システムは、従来の紙ベースの教科書では実現が難しかった2D、3Dアニメーションやインタラクティブな操作による学習を盛り込むことで、教材の内容の理解を支援するためのシステムになっています。システムを開発する中で、漢文の文章の際には見えなかった細かな部分の動きなどが発見されるため、人文科学研究院の先生や学生の方々と議論しながらシステムの開発を進めています。

## 平成29年度の取り組み

1. 「鴻門の会」の電子教材の開発を完了して、2018年2月1日に福岡市西南学院高等学校でモニタリングを行いました。学生さんの学習データを収集して、データの分析を開始しました。
2. 「窮まりてヒ首見はる」の中に記載される物語を3次元アニメーションで再現する電子教材の開発を開始しました。WebGLという技術を活用した教材は任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。電子教材を使用して漢文と書き下し文と訳文を比較して閲覧できます。

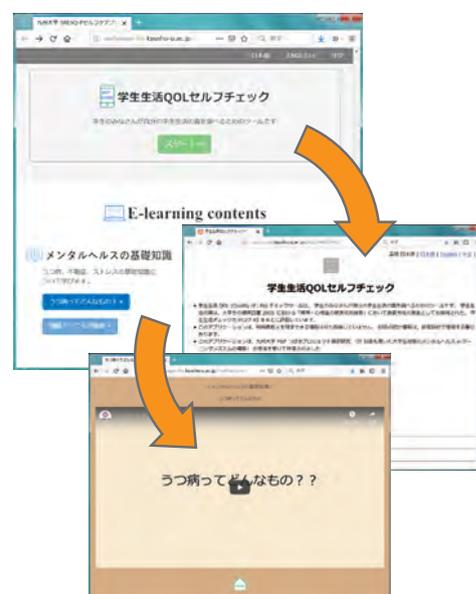
# セルフケアプログラムのWebコンテンツ開発

今年度からの新たな取り組みとして、九州大学キャンパスライフ・健康支援センター教員との協働によるセルフケアプログラムのWebコンテンツ「(学生生活QOLセルフチェック)・「E-Learning contents)」開発を実施しています。今後の取り組みとして、英語、中国語版コンテンツの完成を目指しています。

## 開発概要

セルフケアプログラムのWebコンテンツは、「学生生活QOLセルフチェック」と「E-Learning contents」から構成されています。「学生生活QOLセルフチェック」は、学生が何時でも何処でも好きな時に確認することができるように、対話型のWebコンテンツとして開発しました。質問に答えることで、判定結果が表示されるものです。キャンパスライフ・健康支援センターの先生方から質問文と判定結果文のテキストデータをいただき、テキストデータを入れ替えることで、他の言語へも対応できるようにWebプログラム開発を行いました。

「E-Learning contents」は、PPTの学習コンテンツに動きを付けた動画コンテンツです。キャンパスライフ・健康支援センターの先生方からPPTのデータをいただき、字幕付け等の動画編集を行いました。



セルフケアプログラムWebコンテンツ

## 「学生生活QOLセルフチェック」

学生が自分の学生生活の質を調べるツールです。大学生の健康白書2005における「精神・心理面の健康状況調査」で調査方法の原案としても採用された「学生生活チェックカタログ45」をもとにしています。

(出典：<http://constrv.icer.kyushu-u.ac.jp/web/3RESQ-P/StudentLifeSelfCheck20171106/index.html>)



リラクゼーション実習編動画

## 「E-Learning contents」

うつ病、不眠症、ストレスといったメンタルヘルスや、ストレス耐性を高める考え方やストレス対処法の基礎知識を動画で視聴しながら学ぶことができます。また、リラクゼーションとストレッチング実習編動画では、動画を視聴しながら体を動かすことで、学生の心身の健康を増進することができます。

(出典：<http://webpages.ihs.kyushu-u.ac.jp/~selfcare/index.html>)



ストレッチング実習編動画

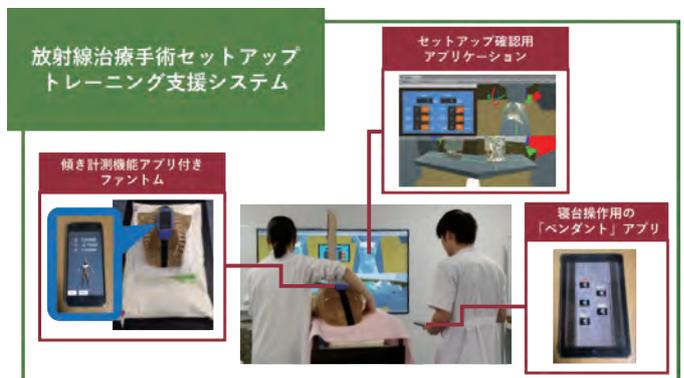
# 放射線治療

## のための患者セットアップトレーニング支援教材の開発と効果測定

医学研究院の先生・学生と共同で診療放射線技師の放射線治療教育を支援するシステムを開発しています。本教材は、放射線治療を行う際に、放射線治療装置が癌細胞に適切に放射線を当てる事が出来るように、放射線技師が患者の体の位置や角度を適切に配置する作業(以下、患者セットアップ)の行程を体験的に学習できる教材を開発しています。また、実際に放射線技師の教育を受けている学生に開発した教材を利用してもらい、本教材の教育効果を測定しています。

### 研究組織(開発チーム)

藤淵 俊王 (医学研究院 准教授)  
池田 奈津穂 (医学部保健学科 4年)  
岡田 義広 (教材開発センター長)  
金子 晃介 (教材開発センター 協力教員)



### 研究概要

放射線治療は、癌治療の手法の一つで、外科手術のように患者の体を切開することもなく、また抗がん剤治療のように副作用も少ないことから、非常に注目されている治療法です。放射線治療では、患者の癌細胞に対して放射線を照射し、癌細胞を破壊します。この際に、他の正常な細胞に放射線が当たらないように、患者セットアップの作業を行う必要があります。本教材は、放射線技師の教育を受ける学生が、患者セットアップを適切に行えるようにトレーニングを行うシステムです。実際の放射線治療装置は、病院の治療のスケジュールやランニングコストの問題から、気軽にトレーニングとして利用できるものではありません。そこで、本プロジェクトでは、CGや模型を用いて安価で且つ体験的にトレーニングを行うことが出来る教材を開発しています。本教材では、「ファントム」と呼ばれる患者の胸部模型に傾きを計測するシステムを導入しています。学習者が、ファントムを傾けると、傾きを測定した結果が、CGの人体モデルの傾きに反映されます。また、寝台を操作し、患者の体の位置を調整する「ペンダント」と呼ばれるコントローラーを模倣したシステムを導入しています。このシステムを操作することで、CGの人体モデルの体の位置を調整できます。実際に、放射線治療の教育を受けている学生に、開発した教材を体験してもらい、教育効果の測定を行うとともにシステムの改善にも役立っています。

### 平成29年度の取り組み

放射線治療の教育を受けている学生に、前年度までに開発していた本教材を利用してもらい、本教材の教育効果の測定を行いました。本教材を利用する前後で、患者セットアップを行う時間や操作回数を測定したところ、本教材を使用した後で患者セットアップを行う時間や操作回数が大幅に減ったことから、本教材が患者セットアップトレーニングに有用であることがわかりました。

# 代表的研究者紹介ビデオ制作

平成28年度から、九州大学の先端的な研究やユニークな研究を国内外に広くアピールするために研究者紹介ビデオの撮影・編集・公開に取り組んでいます。

各部局から推薦のあった総勢28名の研究者の紹介ビデオを鋭意制作していますが、今年度4月から編集の完了したものを順次公開しています。

## 活動概要

多くのビデオは、教材開発センターのスタジオで撮影されています。クロマキーで背景を合成した映像を基に、取材映像やイラスト等を盛り込むことで、説得力のあるビデオに仕上がっています。国際化にも対応すべく、日本語・英語版を制作し、それぞれに日・英字幕を付けています。この研究者紹介ビデオにより、国内外の優秀な学生に九州大学の代表的な研究に興味を持ってもらえればうれしい限りです。

## 平成29年度の取り組み

今年度は、以下11名の先生の動画をWebサイト「先生の森森の映画館」で公開し、昨年度と合わせ現在までに、15名の先生の動画が公開されています。

- ・吉澤 一成 先生 (先導物質化学研究所)
- ・益尾 知佐子 先生 (比較社会文化研究院)
- ・宮本 一夫 先生 (人文科学研究院)
- ・廣島 文生 先生 (数理学研究院)
- ・佐竹 暁子 先生 (理学研究院)
- ・篠崎 彰彦 先生 (経済学研究院)
- ・エドワード・ウィッカーズ 先生 (人間環境学研究院)
- ・岡村 耕二 先生 (情報基盤研究開発センター)
- ・吉田 茂生 先生 (医学研究院)
- ・山西 芳裕 先生 (生体防御医学研究所)
- ・下條 恵子 先生 (言語文化研究院)



(日本語版) <http://rpv.icer.kyushu-u.ac.jp/>  
(英語版) <http://rpv.icer.kyushu-u.ac.jp/en/>

# その他の教材開発の取り組み

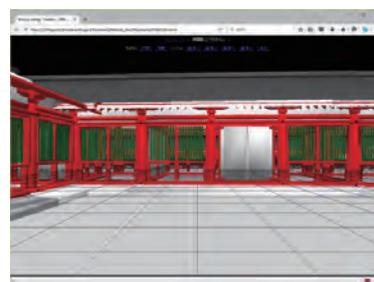
教材開発センターでは、九州大学内外問わず、3次元CG等のICTを活用した対話型電子副教材の開発とその支援を積極的に行い、広く利用してもらう取り組みを実施しています。また、今年度の新たな取り組みとして、九州大学留学生センターの教員との連携による、留学生向け漢字学習Web教材の開発を実施しました。

## 鴻臚館学習教材の開発

福岡市経済観光文化局文化財部や特定非営利活動法人福岡城市民の会とともに、「福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業」の一環で、鴻臚館の歴史を学習できるコンテンツを開発しました。

今年度は、本プロジェクトを通して開発してきた、平安時代の鴻臚館の様子をヴァーチャルリアリティで体感できる教材(VR教材)や、かつての鴻臚館の様子が描かれたイラストや鴻臚館の3Dモデルを閲覧しながら鴻臚館の内容を学習できる教材(Web教材)を福岡市博物館の特別展で体験展示しました。

「発見100年記念特別展  
よみがえれ! 鴻臚館 一行き交う人々と唐物ー」  
開催期間：2017年9月7日(木)~10月22日(日)  
開催場所：福岡市博物館 特別展示室  
(福岡市早良区百道浜3-1-1)



鴻臚館3DCG再現モデル

## 漢字学習Web教材の開発



留学生向け漢字学習Web教材

九州大学留学生センター教員との連携により、留学生の日本語学習を支援する漢字学習Web教材の開発を実施しました。本Web教材は、『(新版)BASIC KANJI BOOK ~基本漢字500~ VOL.1/VOL.2』(凡人社、2015)を使用し、漢字を学ぶ中級レベルの日本語学習者向けに開発したものです。留学生を対象とした「Japanese Academic Courses」において1年間使用されました。漢字の成り立ちや書き順を動画により確認できるため、学習効果の向上が図れます。Web教材のため、対面授業での利用以外に、留学生の予習・復習にも役立ちます。

# 活動紹介

# 講義動画等の 撮影・編集・公開

学生向けの講義や学内関係者向けの講習会、外部講師による講演などを撮影・編集し、依頼者の要望に応じてYouTube、iTunes Podcast、OCWで公開しています。公開された動画はどなたでも視聴することができ、大学の講義を体験することができます。興味がある科目があれば、自分のペースでいつでも学習することができます。

教材開発センター Webサイト



<http://www.icfr.kyushu-u.ac.jp>

九州大学公式YouTube



<http://www.youtube.com/KyushuUniv>

九州大学 iTunes Podcast



<http://itunes.icfr.kyushu-u.ac.jp>

九州大学 OCW



<http://ocw.kyushu-u.ac.jp>

教材開発センターでは、年間を通してさまざまな形態の撮影を行っています。毎週の講義を撮影することで、学生がやむを得ず出席できない場合や復習したい場合、動画を利用して自主的に学習を進めることができるような学習環境の整備を行っています。グローバル化が進む中で、海外の学生と英語でディベートを行う講義は目を見張るものがあります。ぜひご覧ください。

各種講習会を撮影した動画を対象者へ配信することで、特定の実験や業務に従事するために必修となる講習会を効率的に受講することができるような体制づくりにも貢献しています。また、年間を通して各部局で教職員向けに開催されるFD(=Faculty Development: 大学教員の教育能力を高めるための実践的方法)の講習会動画を共有することで、常に変化を求められる大学教育のあり方について考え、教職員1人ひとりの資質向上を常に目指しています。

講義や講習会そのものだけでなく、講義の内容を学生に分かりやすく伝え履修希望者を募るために、基幹教育科目

のビデオシラバス(科目紹介ビデオ)の制作も行いました。加えて、日々の学習には心身の健康は欠かせませんので、メンタルヘルスに関する動画や効果的なストレッチの動画の撮影も行いました。こちらもe-ラーニング教材として活用します。

2017年度にYouTubeで公開した動画は、限定公開を含め173本です。また、会場・現場へ赴き撮影を行った回数は、56回にのぼります。今後もより高品質な動画教材の制作を進めていき、九大の魅力を世界に発信していきたいと思えます。



講義の撮影風景

## 映像教材制作・公開実績

○ = 公 開  
● = 限定公開

項目	タイトル	講師	YouTube	iTunes Podcast	その他	備考
講義(前期)	J-US Exchange Debate 2017 at Kyushu University (Policy)	井上 奈良彦 教授	○			撮影・編集・公開
	J-US Exchange Debate 2017 at Kyushu University (Policy: HEnDA)	井上 奈良彦 教授	○			編集・公開
	J-US Exchange Debate 2017 at Kyushu University (BP)	井上 奈良彦 教授	○			編集・公開
	H29 How to make a good presentation AppChem	藤ヶ谷 剛彦 准教授	○			公開
講義(後期)	外国語週間英語特別企画 "What is DEBATING?"	井上 奈良彦 教授	○			撮影・編集・公開
	AIMapチュートリアル講義 計5本	神山 直之 准教授 (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所) 畔上 秀幸 教授 (名古屋大学 大学院情報学研究所)	○			編集・公開
集中講義	2017 International Friendship Debate 計7本	井上 奈良彦 教授	○			撮影・編集・公開
最終講義	「命をあずかる仕事」	外 須美夫 教授 (医学研究院)	○			撮影・編集・公開
	「世界の食料需給とそのメカニズム」	伊東 正一 教授 (農学研究院)	○			撮影・編集・公開
講演会	I <sup>2</sup> CNER Seminar Series(年間計11本)		○	○		撮影・編集・公開
	「アメリカのディベート教育最新事情」	Dr. John M. Kephart III (Associate Professor at California States University)	○			撮影・編集・公開
	教育改革シンポジウム2017 計12本		●			撮影・編集・公開
	「大学ブランディングの真の取り組み」	モンテ・カセム 教授 (元・立命館アジア太平洋大学長)	●			撮影・編集・公開
国際シンポジウム	International Symposium on Quality Assurance in Design Education ~デザイン教育の質保証国際シンポジウム~ 計18本		○	○	○	編集・公開
E-Learning教材	3RESQ-Pメンタルヘルスプログラム 計18本	キャンパスライフ・健康支援センター	●			撮影・編集・公開
その他	大学院基幹教育ビデオシラバス	谷本 潤 教授 (総合理工学研究院)	○			撮影・編集・公開
	國武豊喜先生へのビデオレター(授賞式で上映)	久保総長、他3名			学内利用	撮影・編集
	平成30年度用 基幹教育ビデオガイダンス				学内利用	編集

○ = 公 開  
● = 限定公開

項目	タイトル	講師	YouTube	iTunes Podcast	その他	備考
FD(講演会・講習会)	平成29年度 第1回全学FD (新任教員の研修) 計6本		●			撮影・編集・公開
	基幹教育セミナーFD		●			撮影・編集・公開
	課題協学科目担当者向けFD		●			撮影・編集・公開
	平成29年度 教育の質向上支援プログラム (EEP)成果発表会 計4本		●			撮影・編集・公開
	九州大学FD・SDオープンセミナー「魅力ある 短期留学プログラムをつくる。」 計7本		○			撮影・編集・公開
	著作権セミナー ～著作権法第35条改正間近!? 大学では何が起こるのか?～	吉田 素文 教授 (国際医療福祉大学医学部)	○	○		撮影・編集・公開
講習会	工学部等放射線障害予防規程等講習会 (日本語・英語)				学内利用	撮影・編集
	新規X線講習会(日本語・英語)		●		学内利用	撮影・編集
	新規RI教育訓練(日本語・英語)		●		学内利用	撮影・編集
	理学部等放射線障害予防規程等講習会				学内利用	撮影・編集
	加速器・ビーム応用科学センター 放射線障害予防規程等講習会				学内利用	撮影・編集
	遺伝子組換え実験に係る教育訓練				学内利用	撮影・編集
	平成29年度動物実験に係る一般教育訓練				学内利用	撮影・編集
	派遣留学・海外研修のため/海外渡航前 危機管理セミナー(年間計2回)		●		学内利用	撮影・編集・公開
	九州大学 アクティブラーニング教室	ジェームズ・カノン 准教授 (九州大学 工学研究院)	○			撮影・編集・公開
	九州大学 安全の日講演会				学内利用	撮影・編集
放射線取扱者再教育訓練(日本語・英語)		●		学内利用	撮影・編集	
説明会	共創学部説明会(年間計2回)				学内利用	撮影・編集
	SciVal及びPureに関する説明会(年間計2回)				学内利用	撮影・編集 ※内1回は編集のみ

○ = 公開  
● = 限定公開

項目	タイトル	YouTube	iTunes Podcast	その他	備考
公開依頼	公式PV「大学紹介ムービー 2016-2017(ショートバージョン)」	○			公開
	公式PV「九州大学共創学部 学部長(候補者)メッセージ」	○			公開
	公式PV「大学紹介ムービー 2016-2017(ショートバージョン)【改訂版】」	○			公開
	公式PV「世界に響け九大交響曲   大学紹介ムービー 2016-2017【改訂版】」	○			公開
	公式PV「Kyushu University 2017 -Culture and Campus life video (revised edition)」	○			公開
	公式PV「九州大学大学院システム情報科学府	○			公開
	公式PV「九州大学大学院システム情報科学府」情報知能工学専攻」	○			公開
	公式PV「九州大学大学院システム情報科学府 電気電子工学専攻」	○			公開
	公式PV「九州大学大学院システム情報科学府 情報学専攻」	○			公開
	公式PV「九州大学工学部電気情報工学科」	○			公開
	公式PV「Department of Electrical Engineering and Computer Science, School of Engineering, Kyushu University」	○			公開
	CM「Kyushu University Catch Your Dream! -Study in JAPAN -(TV Commercial)」	●			公開
	CM「Kyushu University   Catch Your Dream! -Study in JAPAN -(A digest version)」	●			公開
	啓発動画「音を視る」	○			公開

# FD 講習会 開催

## 電子教材著作権講習会

講師：岡田 義広（教材開発センター長）

### 5月 ～3キャンパス～

日時:	場所:	参加者:
2017年 5月15日(月) 10:30～12:00	伊都地区（センター3号館1階 3105セミナー室）	6名
2017年 5月15日(月) 15:00～16:30	箱崎地区（理系地区21世紀交流プラザII 講義室2）	5名
2017年 5月15日(月) 17:30～19:00	病院地区（総合研究棟2階 204セミナー室）	10名
		計 21名

### 12月 ～2キャンパス～

日時:	場所:	参加者:
2017年12月25日(月) 10:30～12:00	伊都地区（センター3号館1階 3105セミナー室）	20名
2017年12月25日(月) 17:30～19:00	病院地区（総合研究棟1階 104セミナー室）	9名
		計 29名



著作権セミナー ～著作権法第35条改正間近!?大学では何が起こるのか?～

講師：吉田 素文 教授

国際医療福祉大学医学部 副医学部長・医学科長

大学学習資源コンソーシアム(注)の運営委員ならびに活用ガイドラインWG主査

元・九州大学医学研究院 教授、附属図書館副館長および教材開発センター協力教員

(2015年度まで教材開発センターのFD電子教材著作権講習会担当)

大学教職員及び学生・一般対象

日時:

2018年 3月 1日(木) 13:30～15:00

場所:

伊都地区 (新中央図書館 講習会スペース)

参加者:

計 50名



# 教材開発支援機材

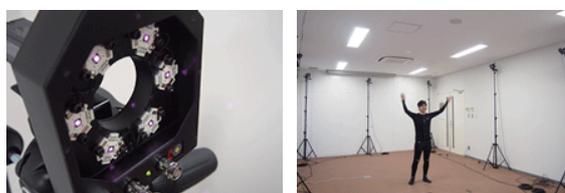
教材開発センターでは、2D/3D教材開発システムおよび講義収録配信システムを導入しており、利用を希望する教員へ機材の貸し出しを行っています。

## 2D/3D教材開発システム

デジタル顕微鏡



光学式モーションキャプチャー装置



3Dスキャナー



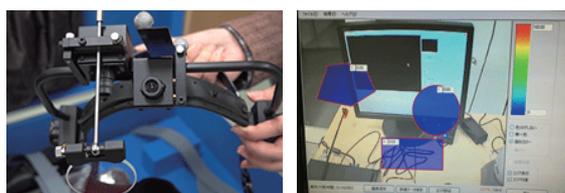
3Dプリンター



ハイスピードカメラ



視線追尾装置



## 360度VRカメラ

KANDAO Obsidian S



Insta 360 Pro



## 講義収録システム

Winnov Cbox



詳細は、以下URLよりご覧ください ▶ 教材開発支援機材利用申込みフォーム  
[http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast\\_use\\_apply](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply)

## 学会・イベント等

## 学会・シンポジウム

## 「2017年度Japan IT Week春」参加

日 時 2017年5月10日(水)～12日(金)

場 所 東京ビッグサイト

参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「第8回教育ITソリューションEXPO」参加

日 時 2017年5月17日(水)～19日(金)

場 所 東京ビッグサイト

参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「第25回3D&amp;バーチャルリアリティ展」参加

日 時 2017年6月21日(水)～23日(金)

場 所 東京ビッグサイト

参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「第14回観光情報学会全国大会」参加及び発表

日 時 2017年6月30日(金)～7月2日(日)

場 所 静岡県立大学

参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「複雑知的ソフトウェア向きシステムに関する第11回国際会議」参加及び発表

日 時 2017年7月9日(日)～13日(木)

場 所 トリノ(イタリア)

参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「ネットワークに基づく情報システムに関する第20回国際会議」参加及び発表

日 時 2017年8月23日(水)～28日(月)

場 所 トロント(カナダ)

参加者 教員1名(岡田 義広)

「GameOn 2017」参加及び発表

日 時 2017年9月4日(月)～10日(日)  
場 所 カーロウ(アイルランド)  
参加者 教員1名(岡田 義広)

「FIT2017」参加

日 時 2017年9月12日(火)～13日(水)  
場 所 東京大学  
参加者 教員2名(岡田 義広、石 偉)

「電子情報通信学会ソサイエティ大会」参加

日 時 2017年9月14日(木)～15日(金)  
場 所 東京都市大学  
参加者 教員2名(岡田 義広、石 偉)

奈良文化財研究所第9回東京講演会「デジタル技術で魅せる文化財－奈文研とICT－」参加

日 時 2017年10月6日(金)～7日(土)  
場 所 有楽町朝日ホール  
参加者 教員1名(谷澤 亜里)

「日本バーチャルリアリティ学会第53回複合現実感研究会」参加及び発表

日 時 2017年10月18日(水)～21日(土)  
場 所 北見工業大学  
参加者 教員1名(岡田 義広)

「EDUCAUSE年次大会」参加

日 時 2017年10月30日(月)～11月5日(日)  
場 所 フィラデルフィア(アメリカ)  
参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「iCERI2017」参加及び発表

日 時 2017年11月15日(水)～20日(月)  
場 所 セビリア(スペイン)  
参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「観光情報学会第16回研究発表会」参加及び発表

日 時 2017年11月17日(金)～19日(日)  
場 所 鳥取大学  
参加者 教員1名(金子 晃介)、学生1名

## 「SIGGRAPH ASIA 2017」参加

日 時 2017年11月26日(日)～30日(木)  
場 所 バンコク(タイ)  
参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「大学英語教育学会バイリンガリズム研究会」参加

日 時 2017年12月2日(土)  
場 所 明治大学  
参加者 教員1名(安西 弥生)

## 「人文科学とコンピュータシンポジウム2017」参加

日 時 2017年12月9日(土)～10日(日)  
場 所 大阪市立大学  
参加者 教員1名(岡田 義広)

## 「大学ICT推進協議会2017年度年次大会展示会」参加

日 時 2017年12月12日(火)～15日(金)  
場 所 広島国際会議場  
参加者 教員2名(岡田 義広、谷澤 亜里)、テクニカルスタッフ2名(上野 敦子、森 淳也)

「Q-Conference2017」参加

日時 2017年12月16日(土)  
場所 福岡工業大学  
参加者 テクニカルスタッフ2名(河野 由起子、森 淳也)

「情報処理学会・人文科学とコンピュータ研究発表会」参加

日時 2018年1月27日(土)～28日(日)  
場所 函館コミュニティプラザ  
参加者 教員1名(石 偉)

「技術・教育と開発に関する第12回年次国際会議」参加及び発表

日時 2018年3月4日(日)～8日(木)  
場所 バレンシア(スペイン)  
参加者 教員2名(岡田 義広、金子 晃介)

「EIDWT-2018」参加及び発表

日時 2018年3月13日(火)～19日(月)  
場所 ティラナ(アルバニア)  
参加者 教員1名(岡田 義広)、学生1名

共同研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」全体集会 参加及び発表

日時 2018年3月1日(木)  
場所 長崎大学  
参加者 教員1名(石 偉)

## 総会・委員会

### 「JMOOC定期総会」出席

日 時 2017年6月22日(木)

場 所 明治大学

参加者 教員1名(岡田 義広)

### 「JOCW2017年度総会」出席

日 時 2017年11月10日(金)

場 所 大阪大学東京オフィス

参加者 教員1名(岡田 義広)

## その他

### 「データベースの可視化と教材への利用」研究打合せ

日 時 2018年1月26日(金)

場 所 北海道大学

参加者 教員1名(石 偉)

# 刊 行 物

# ICER Newsletter

～ 九州大学附属図書館教材開発センターだより ～

第26号  
2017年4月発行



第27号  
2017年6月発行



第28号  
2017年8月発行



第29号  
2017年10月発行



第30号  
2017年12月発行



第31号  
2018年2月発行



以下URLよりご覧いただけます

▼ ICER Newsletter  
<http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/pr>

# ICER 2017

九州大学附属図書館付設教材開発センター年報

編集：九州大学附属図書館付設教材開発センター

住所：〒819-0395 福岡市西区元岡744  
E-mail : [tokyozai@jimu.kyushu-u.ac.jp](mailto:tokyozai@jimu.kyushu-u.ac.jp)

TEL : 092-802-6106 FAX : 092-802-6109  
HP : <http://www.icer.kyushu-u.ac.jp>